

水口憲哉 氏（東京海洋大学名誉教授／資源維持研究所主宰）の講演から

放射能を海に捨てないでください。

―青森県六ヶ所村再処理工場のなにが問題なのか

青森県六ヶ所村で稼働予定の核燃料再処理工場は、原発1年分の放射能を1日で海へ捨てる。青森で捨てた放射能は、海流に乗って三陸・房総・首都圏へ、どんなに流れて来る。イギリスの再処理工場周辺では、子どもの発ガン率が他より10倍も高い。…

マスコミではほとんど報道されなかったこれらの事

実が、最近になって少しずつ知られるようになり、大きな世論のうねりになるうとしている。六ヶ所村再処理工場の問題点について、この問題を25年以上に渡って指摘してきた水口憲哉氏の講演から分かりやすく紹介する。

釣り人はずっと気持ちよく釣りたいだけなのだが。

東京水産大学（現東京海洋大学）で30数年、全国の漁業における環境問題、特に原子力発電所と漁場との関係についてずっと研究してまいりました。今日は青森県六ヶ所村で稼働予定の「再処理工場」の抱える危険性についてお話ししたいと思います。

再処理工場の危険性については、国や電力会社に都合の悪いことなので、これまでずっと隠されてきました。このままいくと私たちに知らされないままに、私たちの命と安全に関わる危険が現実のものになってしまいます。

正しい事実を知り、それが自分た

ちにとつてどういう意味を持つのかということを感じることが、いま一番大切なことです。

青森県六ヶ所村再処理工場の稼働が遅れているわけ

再処理工場というのは非常に分かりにくく難しい言葉です。リサイクルできて良いみたいには思えますが、とんでもありません。

いま日本には54基の原子力発電所があります。原発が運転されると、使用済み燃料という、ウラン燃料の燃えカスが出ます。これは非常に危険なもので陸上を運搬できず海

上を船で運搬します。それが今はみんな青森県の六ヶ所村にある日本原燃株式会社で再処理工場に運びこまれています。

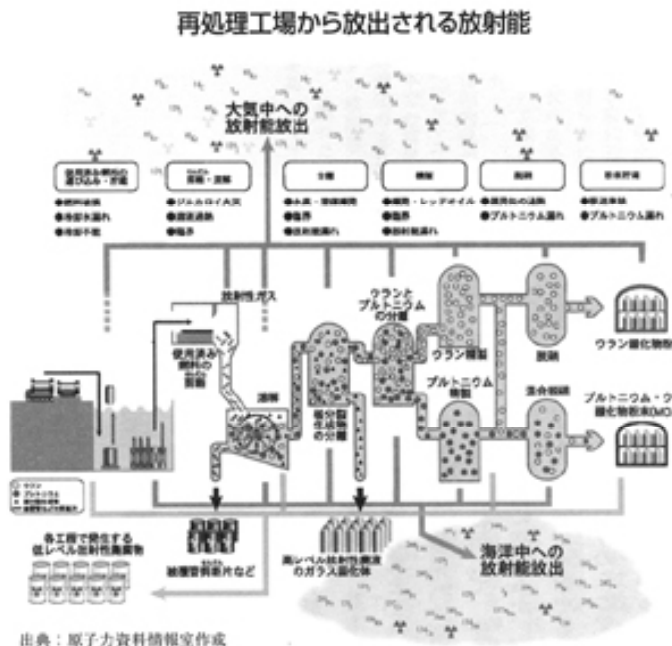
再処理工場では、ウラン燃料とプルトニウムを作ります。プルトニウムというのは、核兵器の原料です。そのプルトニウムを日本では、無理やりウラン燃料と一緒に混ぜてMOX燃料という燃料にして、原子力発電所を動かそうとしています。これがプルサーマル計画です。ただし、問題が多く日本では実現していません。

六ヶ所村の再処理工場は2006年の3月31日に試運転が始まって、

再処理工場は核兵器の原料であるプルトニウムを作り出してしまうという。そして第三に、事故が起きたら原爆、水爆投下と同じようなことが起きてしまうということです。

アメリカのスリーマイル島原子力

発電所やチェルノブイリ事故を皆さんは覚えていらっしゃると思います。茨城県の東海村にあるちいさな規模の、ほとんど故障続きで動いていない再処理工場や、六ヶ所村で本格運転が始まろうとしている再処



再処理工場で事故が起これば、原爆や水爆投下と同じことで、風下の住民は何10万人と死亡すると国は想定しています。それだけ大変なものなのです。

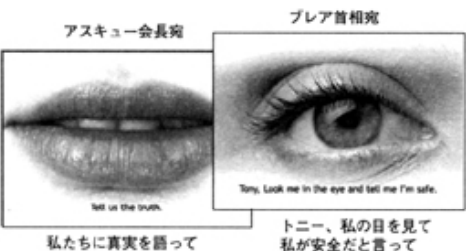
理工場の事故が起これば、原爆や水爆投下と同じことで、風下の地域住民は何10万人と死亡すると、国は想定しています。それだけ大変なものなのです。

この海洋中への放射能排出が問題なのです。しかしながら、これまで多くの人たちに知らされませんでした。今から20年ほど前に青森県の県民シンポジウムで、再処理工場と漁業との関係を話したことがあります。すると地元東奥日報新聞社から原稿依頼がありました。私は原稿に、再処理工場が海に捨てる放射能は、三陸海岸まで流れると書きました。これは青森県だけの問題ではなく、広く大きくもつと遠くまで、隣の三陸海岸まで流れていくものだという意味です。

第四に、再処理工場は普通に運転するだけで、日常的に大量の放射能を海や大地に垂れ流します。この、海に放射能を捨てることについて、食べもののとの関係を考えてみたいと思います。

まず、再処理工場では、どうして放射能が捨てられるのか。

原子力発電所から出た使用済み燃料は、再処理工場に運び込まれます。金属のパイプに入っているのですが、それを裁断して削って溶かすことでウランとプルトニウムになります。その過程で色々な気体性の放射性物質が出ます。それらは大気中へ捨てられます。同時に液体性の放射性物質もたくさん出てきます。そしてそれらは、まとめて海へ捨てられます。



2002年4月、イギリスのセラフィールド再処理工場の放射能汚染に対して、アイルランドで行われたポストカードによる抗議行動。右がブレア首相（当時）宛、左は再処理工場の運営会社社長宛。合計約150万枚が投函された。一部はチャールズ皇太子にも届いたという。図版は「放射能がクラゲをやってくる」（七つ森書館）から。

今年の夏から本格稼働かといわれていましたが11月に延び、さらに来春に伸びています。もともと当初の計画では7年前に本格運転が始まっているはずなのですが、様々な問題や事故が次々と起きて、遅れているのが現実です。

アメリカ、ドイツでは危険すぎて建設していない再処理工場

再処理工場は何か問題なのでしょう。第一に本来は原発に依存しない社会が望ましいのですが、原発を頼りにする社会が持たざるを得ない必要悪であるということ。第二に、

NHK青森と岩手と秋田の3県の共同制作で、各地の漁業について話をしたことがあるのですが、最後のまとめで、これから東北の海で心配なことの一つが、再処理工場から流れる放射能が三陸の海に流れていくことだ、とほんの少し話しました。すると録画終了後、青森のディレクターがその部分を削除してほしいといいました。

青森県NHKや東奥日報というマスコミが、再処理工場の問題を外に

知らせないように、電力会社のためを思っ

年間約47000人分の致死量の放射能が六ヶ所村で捨てられる

再処理工場は大量の放射能を海へ捨てますが、それを国は許可して

2005年11月26日の岩手日報に「本県漁業者 募る不安」環境影響、安全性は。情報公開を求める声」というタイトルの大きな記事が出

原子力発電所が事故で放射能を排出したり、1年間で捨てる放射性廃液を、再処理工場は1日で捨てま

これは大変な量です。日本原燃が国に出している安全審査の申請書に、この数値がはつきり出ています。

は、私たちの体のもともとの仕組みです。

ですから非常に厳しい話ですが、胎児性水俣病は、魚を食べて取り込

濃縮は体の仕組みです。それがあ

魚好きな子どもほど放射能に侵される

フランスのラアーグ、イギリスのウィンズケールの再処理工場から流

放射能は一番危険な環境問題のはずなのですが、環境省は扱えません。環境アセスメントの中に放射能のことは初めから入っていないのです。

原子力発電所も放射能廃液を捨てているのですが、再処理工場はべらぼうに量が多いのです。そしてそれを国が許可しています。

再処理工場では、放流管という管を海の底を何キロも這わせていつ、そこから捨てようとしています。薄めて遠くに流し、影響を見えにくくしている。これは工場の煙突と同じです。ね。廃棄物や有害物がすぐ地元

それに対して、放射性廃棄物や放射性物質を使う医療施設について反対をしていた盛岡の永田文夫さんの試算によると、再処理工場から捨てる放射性量は、仮に廃液がそのまま口から体内に入った場合、年間約47000人分の致死量になります。

ここでの注目点は、第一に、放流口では、飲むどころかその水中に

れてきたセシウム137という放射性物質が、海の中を川のように流れていることが、調査で明らかになりました。

1980年代になって、北海で1万数千頭のアザラシが死亡しました。これは再処理工場からの放射性物質や、農薬などの化学物質が北海に流れでた複合汚染が原因だろうといわれています。アザラシは魚しか食べませんから濃縮も大変なもので

西ドイツでは、海水浴が禁止になり、何十頭というアザラシの死体があがりました。そういうところでは海に入りたいとは思えませんが、日本でもこのことは大きく報じましたが、原因は複合汚染なので、再処理工場が原因だとは言われないまま

1981年11月14日の朝日新聞に、「英の近海物高放射能」という記事が掲載されました。東大で放射線健康管理学を研究している東郷さんという準教授が、日本公衆衛生学会で報告した内容です。

なことが起きるほどの量なのです。第二に、放射能に汚染された海藻が意味すること。第三に、海中の放射能を私たちは海産物を通して摂取することになること。これらの問題を次に説明します。

再処理工場周辺の子どもの発ガン率は10倍

イギリスのセラフィールド核燃再処理工場近くでは、放射能汚染した海藻が大量漂着した結果、周辺海岸の25kmを閉鎖しています。再処理工場周辺では、子どもの白血病などの発ガン率は、他の地域の10倍になっています。これは英政府が調査して認めている事実です。恐ろしいことにこのことはマスコミではほとんど、全く報じられません。

英国議会は、再処理工場からの放射能漏れで魚が大量に汚染されていることについて、セラフィールド再処理工場は世界最大の放射性廃棄物排出源であり、その結果、アイルランド海は世界で最も放射能の高い海となっていると厳しく批判していま

放射能廃液を海に捨てたとして、希釈されるから本当に問題ないのかというと、薄まることはあっても消えないし、なくなりません。



「日常生活と放射線」の説明図 日本原燃（株）のホームページから

放射性物質のなかには、放射能の効力が半分になる半減期が、長いものでは1万数千年もあります。遠くまで流れていくというのはそのとおりだと思いますが、流れた先で海底に降り積もり、消えません。捨てられた放射能は、海の流れにのって拡がっていくことが予測されます。そして海藻や魚に付着し、取り込まれ、濃縮されます。

例えば放射能がプランクトンに付着し、プランクトンを小魚が食べて、小魚を大きな魚が食べて最後は人間が食べます。だんだん体の中に入ってくるにつれて、放射能が濃くなります。これを濃縮といいます。海水中に1あったものが人間に戻ってくるときには1000になったり、

なぜそうなるのか。私たちの血液には鉄分が入っています。採り入れた鉄分が血液などにとりこまれるの

東郷さんは、1978年から、1年半イギリスのロンドンで研究生活をおくっていました。その時に5人の子どもたちを連れて行きました。日本でも家族の放射能を研究者として測っていたので、帰国後測定したところ個人差はあったが、放射線量がいずれも数倍程度上がっていたということです。増えた分は再処理工場から捨てられたセシウム137です。帰国後は数値がどんどん下がりました。

東郷さんの子どもたちには魚の好き嫌いがあり、魚好きな子どもほどセシウム137の量が高かったというのです。悲しい話ですよ。健康に良いから魚を食べなさい」といったら、食べた子ども



「再処理工場の周辺で受ける放射線の量は、自然放射線よりもごく小さいものなんです」。日本原燃（株）のホームページから

量が多かったということです。東郷さんは、「英国近海の魚は日本産に比べ、1000倍以上の放射能を持っています。（中略）放射能汚染が出る」とすれば、英国の漁民や、特別に魚好きの人たちからだろうということです。」と書いています。水俣病が不知火海の沿岸で魚を食べていた人たち、漁業の人たちから問題が起こってきたという事実と重なります。

文部科学省の放射線医学研究所ではいま、国民のメニュー調査をしています。モニターが何を何グラム食べたかを細かく調べ、一方、再処理工場の周りの農産物や水産物の放射能量を測ります。そうするとその人が体内に取り込んだ放射能量を計算することができ

このような調査と前提のもとで原子力発電所依存の社会が成り立っています。これは最も怖いことです。ちなみに、放射能は一番危険な環境問題のはずなのですが、環境省は扱えません。環境アセスメントの中に放射能のことは初めから入っていないのです。

青森で捨てた放射能は 首都圏まで流れていく

青森県六ヶ所村の再処理工場で捨てた放射能はどうこへ行くのでしょうか。

海流や潮の流れによる拡散状況を調べるために、六ヶ所村沖から1万枚の調査ハガキを流しました。放射能が流れ着く先を調べつつ、再処理工場の危険性を知ってもらいたかったわけです。この経緯は映画「六ヶ所村ラブソディ」にも出てきます。各地からハガキが帰ってきました。特に地元の六ヶ所村からは109枚。実はさらに同じくらいハガキの数が地元には漂着しているのですが、送り返していないということが分かっていきます。地元で大問題になっているなかで「自分のところに放射能が戻ってくる」ことをわざわざハガキで知らせるということは、辛い事です。協力するのを知られたくないという複雑な思いがあるわけです。岩手県から2通、宮城県から10通、福島県から3通。茨城県から60通ほど帰ってきました。銚子をこえて房総半島の千倉からも1通だけ帰ってきました。

一昨年は、クラゲの大発生が日本各地で問題になりました。クラゲの漂流する動きが、再処理工場で捨て

られた放射能がどのように流れていくかを考えるひとつの参考になります。クラゲは砕かれたり、食べられたり、人間が陸に揚げて捨てたりして消えていくものですが、放射能は消えませんし、時間がたつてますます、濃くなつていきます。

運転前から「損害賠償は600億円を用意してあります」

漁業者の中には反対したり、騒ぎすぎると風評被害で売れなくなるということを心配する人もいます。しかし、隠そうが、知らないふりをしようが、いずれ消費者は事実を知ります。魚は、食物連鎖の下の方の魚である、イワシやアジ、チリメンジャコなどは汚染が少ないのです。1種類を偏って食べずに満遍なく食べるようにすることです。長生きの漁村の食べ物、豆と海藻と小魚だと昔から言われています。

政府の原子力防災指針改定素案でいう「再処理施設事故」には、例えば、通常よりも多く放射性廃液を棄ててしまった場合も含まれます。原爆や水爆が投下されなくても、それだけで大変な事故です。政府はそんな場合、食べ物を規制しようとしています。つまり魚を食べるな、ということ。そのようなところに私たちは生かされているのです。

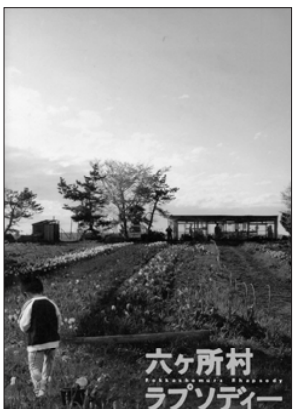
日本原燃のホームページに掲載してある図を見てみましょう（61頁参照）。

モデルは青森県下北半島の漁業者です。

彼は、地元で漁をしていれば、大気から降ってくる放射能や海に棄てられた放射能で身体に放射能を取り込み、海産物を食べて放射能を取り込み、陸での農畜産物を食べて放射能を取り込み、空気、地面から呼吸によって放射能を取り込む、と書いてあります。

年間の合計が国際的に決められた放射能より低いから安全であるとしているのです。取り込む放射能の量を計算されて安全だといわれても困りますよね。これが現実なのです。

2006年2月の朝日新聞に全国紙で初めて、「再処理工場は排水中に放射能を棄てる」という記事が掲載されました。そのなかで日本原燃の社長は、「甚大な影響を与えないようにしていく、万が一の場合は損害賠償をきっちりしていく」と言っています。運転する前からこのようなことを言っているのです。しかも説明会では損害賠償金として「600億円を用意している」と答えています。すでに保険へ入っているのですね。



映画「六ヶ所村ラブソディ」（監督：鎌仲ひとみ）のパンフレット。坂本龍一氏が推薦したことでも話題になった。各地で自主上映会が開催されている。

足りない部分は政府に面倒をみてもらうとまで言っています。

次の世代を苦しめないために

英国のセラフィールド再処理工場が運転開始してから40年以上経っています。全国で問題になっているアスベストも使用後やはり40年以上経っています。水俣病事件は50年経っています。同じ年にビキニの水爆実験があつて、ミクロネシアの人々は今も放射能に苦しんでいます。ですから、私たちの次の世代が大変なことになるために、私たちは何を考えるかということになります。

1954年、東京杉並区の「杉の子会」の活動が参考になります。10人くらいの女性の集まりだったので、メンバーに魚屋さんのおかみさんがいました。ビキニマグロ事件で魚が全く売れなくなつてしまつて、どうにかならないだろうかと会に相

談を持ちかけたことがきっかけで、水爆禁止の署名運動が始まり、日本中に広がり、そして世界にも広がっていったのです。その結果、イギリスやアメリカは30年後に実験を中止しました。少数の女性の思いが署名運動となり、世界的な動きを変えていくということにつながりました。

1960年代、すでにイギリスやドイツの研究者はアスベストの危険性を言っていました。日本はかまわずどんどん輸入して、学校や色々なところに使つたわけです。そしてようやく昨年製造、輸入中止になりました。

誤った判断やごまかし、無関心が、40〜50年後に各地でいかに人々を苦しめるか。再処理工場も然りです。

今ならまだ間に合う

青森県六ヶ所村の再処理工場は、まだ本格運転していません。まだ間に合います。今、停めてしまえば、放射能を海に棄てなければ、再処理工場に關しての危険性はなくなるのです。再処理工場反対と言う必要はありません。「放射能を海に棄てないでください」と言うことです。これに対して「放射能を海に棄ててもよい」と言える人はいないのです。

大事なことは、色々な仕事と暮らす人々が、それぞれの場で知り、しらせることをやり続けることなのです。10数年前、四国電力が伊方原発の出力調整実験をやるうとしたときに中国、九州、四国の女性が4000人近く集まって、「いのちが大事」と言いました。これに対し、電力会社や政府は何も反論できませんでした。この運動が、実は一番、原子力発電

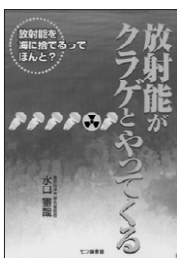
所反対運動の中で、政府や電力会社が困る運動なのです。それと同じことで、再処理工場では食べものの問題として「放射能を海に棄てないでください」という声をあげることが大事なことです。

いま、生産者と消費者が一緒になつてこの問題を考え、「放射能を海に棄てないでください」という声が広がっています。学習会や集まりや「六ヶ所村ラブソディ」の上映会が各地で広がっています。

みんなが青森県六ヶ所村の再処理工場について知つて、それをまた知らせるという形で、次々と人々の関心の輪が広がっています。時間が過ぎましたのでこれで終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

（2007年2月1日 脱原子力発電

放射能がクラゲとやってくる 放射能を海に捨てるとってほんと？
著：水口憲哉
発行：七つ森書館 ISBN:
978-4822806200 840円(税込)



25年以上前から再処理工場からの放射能廃液の海洋放出に關して情報発信を行ってきた著者が、放射能廃液による海洋汚染の実態を述べる。

所学習会での講演「放射能がクラゲとやってくる」をもとに編集

抹啓 湖水の紅葉が美しい頃となりましたでも
落ちないで………
水の中にはお魚ばかりじゃなくて
なにか知らないモノがいるのかもしれない

石坂ちかみ 江川有未 橋本真実
鈴木葉月 平田弥里 古井倫

DVD好評発売中+レンタル中
青春怪奇映画
ナイチンゲール
販売・販売元 バンダイビジュアル
http://www.bandaivisual.co.jp/
監督 末永賢
0 ナイナングーロ製作委員会2006